

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③②
『奥山景布子先生特別授業』

愛知県にお住まいの奥山景布子先生の特別授業が近づいてきました。14日市の文化会館と各学校とを結びオンラインの特別授業を計画しています。テーマは『神話と物語』で日本のはじめての神様のお話をさせていただきます。『古事記』について小学校六年生、中学校一年生を対象としたお話がお願いしてあります。津島ロータリークラブ創立70周年の記念行事です。津島市と愛西市の子どもたちが参加します。奥山先生の書籍を小学校は二冊、中学校は五冊ずつ各学校に謹呈していただきました。『葵の残葉』は尾張藩の親戚高須（岐阜県海津市）松平家に生まれた男兄弟が主人公です。尾張藩の殿様となった徳川慶勝、会津若松藩の殿様となった松平容保、桑名藩の殿様となった松平定敬。それぞれの幕末と明治維新が描かれています。もし文久の改革が最後まで行われていたら、徳川幕府はどうなったか。そんな事を考えながら読むことができます。また最近刊行した『葵のしずく』は悲運の兄弟を支えた女性たちの物語です。中学校の図書室に入っています。一度ご覧ください。

学校訪問である学級文庫を見ていました。面白い絵本を見つけました。『オニのサラリーマン』『オニのサラリーマン出張はつらいよ』『オニのサラリーマンじごくの盆やすみ』。富安陽子、文。大島妙子、絵。まずオニのイラストが楽しいです。赤鬼のオニガワラケン氏は地獄カンパニーの会社員（サラリーマン）。スーツを着て、愛妻弁当を持ち、満員電車で出勤します。会社の社長(?)の閻魔大王の指示で、「全国神さまサミット」の警備の仕事にあたります。友達のオニジマさんと一緒に出雲（島根県）まで飛行船で出張。稲佐の浜は神様たちで大混乱。案内やら警備やらでおお忙し。ハチャメチャ、てんやわんやの楽しいお話です。仕事について考えることができる楽しい絵本です。

第76回読書週間は、10月27日の「文字・活字文化の日」から11月9日まで。読書の秋。時にはテレビもゲームもやめ、書籍を手にしてほしいと思います。今年の読書週間のテーマは「この一冊にありがとう」です。素敵な本に出合ったら、その感想をまわりの人たちに伝えてくださいね。

令和4年11月9日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視